第１学年社会科（地理的分野）学習指導案

１　単元名　　地理的分野　世界の諸地域　「アジア州」

２　単元の目標

・アジア州各地域の自然環境と人々の暮らし、急速な経済成長とそれに伴う課題を理解できる。（知識及び技能）

・アジア州各地域に見られる特色を、人間と自然環境との相互依存や空間的相互依存の関係などから考察できる。（思考力、判断力、表現力等）

・アジア州について、現在の世界や日本が抱える課題と結びつけて、その課題を主体的に追究しようとしている。（学びに向かう力、人間性等）

３　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・アジア州各地域の自然環境の特色とそこに住む人々の暮らしについて理解している。 ・アジア州各地域の経済成長とそれに伴う課題を理解している	・アジア州各地域の経済成長の特色とそれに伴う課題が、現れ方が異なる点があることと地域間に共通する点があることを、地域的特色と結びつけて考察し、表現している。	・アジア州について、現在の世界や日本が抱える問題と結びつけて、その課題を主体的に追究しようとしている。

４　単元の構想

（１）生徒について

地域の気候や文化などの特性は、直接現地を訪れ、経験することが一番理解しやすい。しかし、国内以上に海外に旅行をしたことがあるという生徒は少なく、アジア州となるとほとんどいない。世界地理は、生徒にとっては、実感の湧きづらいものである。故に、グラフなどの数値だけでなく、イメージを膨らませるための写真などの視覚資料を積極的に使うなど工夫をしたい。

アジア州は現在も多くの課題を抱えている。中国の台頭による対立、ミャンマーやアフガニスタンでの軍事クーデターによる政権奪取など、ネットなどから詳細ではないにせよ、情報を得て知っている生徒もいる。しかし、こうした諸問題が空間的相互依存によって日本にも大きな影響を与えるという側面については、理解が及んでいない。サプライチェーンや企業進出などの題材を通して、世界が抱える諸問題に対する興味関心を高められるような、深い学びに繋げていきたい。

（２）単元について

この単元では、「アジア州でこの先、日本企業が進出するのに良い国はどこだろう？」を、単元を貫く問いとして位置づけ、アジア州各地域の急速な成長の要因と成長に伴う都市問題や表面化したリスクを整理分析することを通して、アジア州の特徴と空間的相互依存を日本との繋がりを意識して捉えさせたい。

アジア州の特徴の１つである人口の多さは、降水量などのグラフと比較させ、気候と人口の関連性を考察させ、そこから、広大な面積という特徴とともに、それが人件費や敷地などの経済的利益と繋がっていることを理解させたい。また、都市の成長とそれに伴う都市問題も世界共通で見られる地球的課題の１つであり、SDGs が示す解決すべき課題であることを理解させる。

また、アジア州各国の事例を扱う際は、日本との繋がりを同時に取り上げる。日本最大の貿易相手国である中国を始めとして、日米との同盟国である韓国、半導体工場建設などを通して日本とのつながりを深める台湾など、現在の情勢も単元を貫く問いの判断基準にあてはめて追究させたい。

（３）指導の工夫

・バタフライチャートによって、各地域の特色や課題を視覚化させることで、発展学習に必要な情報を視覚的に理解しやすいようにする。また、発展学習に向けた作業であることを明確に伝えておくことで、作業の意義を理解できるようにする。

・ランキングの基準を設定して、必要な情報収集や分析における方向性を明確にすることで、理由がより説得力があるものか判断することができるようにする。基準となる３つの観点それぞれの資料を各時で提示し、バタフライチャートに反映させる。

・作成したランキングをもとに、違う順序を付けた生徒同士がグループを作成して、多様な意見と触れ合えるようにする。３つの観点のランキングを基に総合ランキングを作成することで、多面的・多角的視点からランキングを作成できるようにする。

・選択肢として東アジアなどの大きな枠組みではなく、「中国」「韓国」「台湾」「ベトナム」「タイ」「インド」「サウジアラビア」「カザフスタン」という特定の国を設定して、企業進出というグローバル化の時代の現実性のある課題を提示することで、より日本とのつながりを意識しやすくする。

・「コスト」などの概念的に難しい用語は、各時で取り扱い具体例を挙げて説明をする。

５　単元の指導計画　（本時　８時間／８時間）

時	学習のねらい（〇）と主な学習内容（・）	評価			
		知・技	思・表	主	評価規準
1	【アジア州をながめて】 〇アジア州の自然環境や文化、人口の特徴を理解する。 ・アジア州の地図に地形を書き込む。 ・雨温図を比較し、特色を読み取る。 ・文化の違いと歴史的背景を理解する。 ・世界の人口の約 60%をアジアが占める理由を特色から考察する。	〇	〇		・アジア州の地図に、地形を正確に書き込むことができる。 ・アジア州各地域の気候の違いを理解し、雨温図を見分けることができる。 ・多彩な文化圏とその背景にある宗教や歴史を理解できる。 ・アジア州の人口が多い理由を、地理的条件から考察することができる。

2	【アジア NIES の成長（韓国・台湾)】 〇アジア NIES の産業の変化と過密による都市問題を理解する。 ・アジア NIES の中から韓国と台湾の産業の変化をグラフから読み取る。 ・経済成長に伴う、都市への過密とそれによる都市の変化を資料で見る。 ・韓国と台湾の特徴をバタフライチャートにまとめる。	〇			・韓国と台湾の工業化をグラフから読み取ることができる。 ・都市への過密によって、地価の高騰や景観の変化が起きたことを理解する。 ・韓国と台湾の特徴をバタフライチャートで自身の考えも踏まえて、まとめることができる。
3	【巨大な人口が支える中国】 〇中国経済がどのように発展し、どのような課題が見られるか理解する。 ・人口の多さが中国経済の発展にどのように影響したかを考察する。 ・経済特区のある沿岸部と内陸部の経済格差を図から読み取る。 ・急速な都市化によって都市で起きた問題について資料を見る。 ・中国の特徴をバタフライチャートにまとめる。	〇	〇		・中国の巨大な人口や広大な国土が、なぜ経済的利点となるのか考察することができる。 ・沿岸部の 1 人あたりの GDP が内陸部よりも高いことを図から読み取ることができる。 ・急速な都市化による課題を理解する。 ・中国の特徴をバタフライチャートで自身の考えも踏まえて、まとめることができる。
4	【都市化が進む東南アジア（タイ・ベトナム)】 〇東南アジアの経済がどのように発展し、どのような課題が見られるか理解する。 ・東アジアの農業と工業化をグラフから読み取る。 ・タイとベトナムの産業の特徴と現在見られる課題について資料を見る。 ・タイとベトナムの特徴をバタフライチャートにまとめる。	〇			・東アジアの工業化をグラフの変化から読み取ることができる。 ・タイの外国企業の積極的受け入れやベトナムの賃金の安さが、工業化に影響したことを理解できる。 ・ベトナムの特徴をバタフライチャートで自身の考えも踏まえて、まとめることができる。
5	【急速に成長する南アジア（インド)】 〇インドではどのように経済が発展し、どのような課題が見られるか理解する。 ・中国とインドの人口の推移と推計をグラフから読み取る。 ・インドが急速に成長した理由を、歴史的背景や地理的条件から考察し、現在抱えている課題を理解する。 ・インドの特徴をバタフライチャートにまとめる。	〇			・インドの人口がやがて中国を抜いて世界一になると予測できることをグラフから読み取れる。 ・インドの数学と英語の教育水準の高さ、欧米との地理的位置による利点を考察できる。 ・インドの特徴をバタフライチャートで自身の考えも踏まえて、まとめることができる。

6	【資源が豊富な西アジア･中央アジア(サウジアラビア・カザフスタン)】 〇西アジア・中央アジアではどのように経済が発展し、どのような課題が見られるか理解する。 ・サウジアラビアやカザフスタンの輸出品から経済の特徴を読み取る。 ・サウジアラビアやカザフスタンが現在抱える問題を理解する。 ・サウジアラビアやカザフスタンの特徴をバタフライチャートにまとめる。	〇			・石油などの豊富な資源の輸出によって経済が発展していることをグラフから読み取ることができる。 ・資源の輸出に頼る経済や不安定な国際情勢という課題について理解することができる。 ・サウジアラビアやカザフスタンの特徴をバタフライチャートで自身の考えも踏まえて、まとめることができる。
7	【この先、日本企業が進出するのに良い国はどこだろう？】 ・日本の経済の特徴について資料を見る。 ・ランキングを付ける際の基準（３つの観点）を確認する。 ・バラフライチャートでまとめた国々について、現在の経済状況など必要な情報を調べる。※基準を参考に ・情報を総合して、バタフライチャートを根拠にランキング付けをする。		〇	〇	・資料をもとに、日本の経済の特徴と課題をバタフライチャートにまとめる。 ・バタフライチャートに追加で調べた情報などを加えて、整理することができる。 ・集まった情報をもとに、理由をつけて、各国をランキング付けすることができる。 ・３つの観点ごとに１～８位のランキングをつける。
8 本時	【意見を交換して、より説得力のあるランキングをつくろう】 ・意見の異なる生徒同士でグループをつくり、互いのランキング付けを説明する。 ・他の人の説明を受けた上で、総合ランキングの作成を行う。		〇	〇	・説得力のある論拠をもとに自身の考えを積極的に伝えることができる。 ・他の人の論拠を参考に自身の意見をより論理的に強化することができる。

6　本時の計画（８時間目／８時間）

（１）本時のねらい

・シンキングツールを利用して学習内容の整理・比較や論理的に他の生徒と意見を交わすことができる。【思考・判断・表現】

・他の生徒の順位付けとその論拠を参考に、多面的･多角的な視点から自身の意見を強化することができる。【主体的に学習に取り組む態度】

（２）本時の展開

学習活動	教師の働きかけと予想される生徒の反応	■評価　　○留意点
【導入】５分 ① 前時の確認	Ｔ１：前回はこの先、日本企業が進出するのに良い国はどこか３つの観点ごとにランキングをつけてもらいました。基準とした３つの観点はなんだったでしょうか？周りの人と確認してみましょう。 Ｔ２：それでは聞いてみたいと思います。わかる人は挙手をお願いします。 Ｓ１：政治や経済の安全性、政策や税制 Ｓ２：資源確保、コストや労働者の質 Ｓ３：日本の強みを生かせる市場	○席は最初からグループ分けした状態で座る。 ○メモ用と振り返りのプリントは各席に配っておく。 ○生徒への確認が終わったら、３つの基準をテレビ画面で表示して改めて視覚的に確認する。
② 本時の課題を確認	Ｔ３：今日は、提出してもらったランキングの意見がなるべく異なる人同士でグループになってもらいました。お互いの意見を交換し合うと、自分では気付かなかった理由も出てくると思います。みんなで話し合った内容を基に、総合ランキングを考えてみましょう！	
課題：意見を交換して、より説得力のあるランキングをつくろう！		
【展開】３５分 ① 作業内容の確認（３分）	Ｔ１：作業の流れを確認します。テレビ画面を見てください。まず３つの観点のランキングをそれぞれ発表し合いましょう！その時にしっかりと理由の部分も説明してください。全員の発表が終わったら、３つの観点それぞれで１人１つ、自分と違うランキングに質問や意見を伝えましょう。良い意見は配られたプリントのメモ欄にメモを取りましょう！その後、各個人で総合ランキングを作成し、振り返りをします。	○本日の流れをテレビ画面に表示する。 ○３つの基準をテレビ画面に表示しておく。
② ランキングを発表して、話し合いをする。（１７分）	Ｔ２：それでは各班で発表を始めてください。 Ｓ１：人件費が安いベトナムが良い。親日の国。 Ｓ２：半導体は日本にも重要だから台湾。	■バタフライチャート図や調べ学習の成果やランキングの基準を論拠として、話合いができている。

③ 話し合いをもとに総合ランキングを作成し、提出箱に提出する。（１５分）	S３：インドは数学や英語にも強く良い人材がそろっている。人口も世界一になる。 S４：資源が豊富なサウジアラビアやカザフスタンが良い。 S５：中国（韓国）とは政治的に対立がある。 S６：インドはインフラの未整備が多い。 S７：ベトナムは離職率が高い。 S８：台湾では今中国と緊張が高まっている。 T３：それでは、ここからは各個人でみんなから集めた情報をもとに３つの観点を総合したランキングをロイロで作成しましょう。 完成したものを提出箱に提出してください。	（ランキング） 【思・判・表】 ■メモ欄を活用して、必要な情報を記録している。 （プリント） 【思・判・表】 ■他者の意見を踏まえて、自分の意見を補強したり、順序を変えるなどの変化をしたりしている。 総合ランキング 【思・判・表】【主体的】
【まとめ】１０分 ①全体でいくつか共有をする。(5分) ②振り返り用紙に振り返りをする。 （5分）	 T１：ではみなさんが提出してくれた総合ランキングをいくつか見てみましょう！ T２：それでは残り時間でプリントの振り返りのところに今日の話し合いの自己評価を記入してください。	○理由部分がしっかり記入できているものをいくつか選び、上位として選ばれた理由の部分と基準を照らし合わせる。 ■振り返りができている。 （プリント）【主体的】

（３） 評価

・アジア州各地域の経済発展の特色とその課題を比較して、日本とのつながりで捉えることを通して、論理的に自身の意見を表現できる。【思考・判断・表現】

・他者と意見を交わすことを通して、多面的・多角的な視点から自身の意見を強化することができる。

・自身の話し合いを振り返り、気付きや反省点を記入することができている。
【主体的に学習に向かう態度】